

Hamee (TYO: 3134)

2024年4月期第2四半期（2023年8-10月期）
決算は前年同期比増収増益に。

サマリー

会社概要

◇Hamee株式会社（以下、同社）は1997年に創業、2015年に東証マザーズにて株式公開、現在はスタンダード市場に上場。「コマース事業」と「プラットフォーム事業」を分社化して運営、共に利益体質である。2023年4月期業績は連結売上高140億円、営業利益13億円、総資産123億円、純資産90億円、従業員数428名。2023年6月発表の中期経営計画では2026年4月期売上高225億円、営業利益33億円を目指す。

◇「コマース事業」：主要事業はモバイルアクセサリーの商品企画・開発・製造およびEC販売と量販店等への卸売で、自社企画商品のiFaceシリーズが若年層を中心に認知されている。事業規模は2023年4月期通期売上高107億円、セグメント利益7億円。現在、ゲーミングアクセサリー、コスメティックス（「ByUR」ブランド）、グローバルへと事業の多層化を推進しており、その成果が収益面に顕在化し始めている。特にコスメブランドの注目度が高まっている。

◇「プラットフォーム事業」：インターネット通販事業者向けに、ネットショップ運営にかかわる業務の自動化、モール横断型で複数店舗の受注処理や在庫状況を一元管理できるクラウド（SaaS）型EC Attractions「ネクストエンジン」を開発し、中規模事業者を中心に6,000社以上に提供している。事業規模は2023年4月期通期売上高34億円、セグメント利益15億円で、着実な増収増益基調にあり、今後もEC市場の拡大の恩恵が期待される。同社は小規模事業者の開拓、料率見直しによるAPRU引き上げ、コンサルティング、事業者間B2Bマッチングプラットフォーム開発などの諸施策を展開し成長基盤を強化している。ふるさと納税サービス事業も提供中。

◇組織再編：2025年をめどにプラットフォーム事業をになうNE株式会社の株式分配型スピノフを行い、さらにNE社を株式上場させる予定である。現在の同社株主は、将来同社とNE社の上場2社の株主になる。2事業のポテンシャルを適切かつタイムリーに足元の株価に反映させる狙いである。

2024年4月期第2四半期アップデート

◇増収増益：売上高43億円（前年同期比+22%増）、営業利益4.6億円（同+41%増）、純利益3.3億円（同+16%増）となり、コマース事業・プラットフォーム事業いずれも増収増益になった。詳しく見ればプラス・マイナス要因があるが、総じて今後の増収増益期待をいだかせる内容と言える。通期予想は据え置かれ、第2四半期までの進捗は低めだが、下半期に業績が偏重する傾向があるため、第3四半期の仕上がりが必要である。

◇今後の注目点：

第一に、繁忙期になる第3四半期の結果で、通期予想の達成確度が高まるか。

第二に、コマース事業におけるコスメティックス・グローバル事業の利益寄与がどの時点で水準を切り上げ、コマース事業全体を底上げていくのか。

第三に、ネクストエンジン事業の平均顧客単価が着実にプラスに転じるか。

第四に、PER等のバリュエーション指標がいつどのように同社の成長性を再評価して切り上がるのか。

2Q決算アップデート

小売・ITサービス

2024年1月15日

株価(1/12)

1,004円

52週高値/安値	1,210/688円
1日出来高(3ヶ月)	57千株
時価総額	160億円
企業価値	147億円
PER(24/4会社予想)	10.6倍
PBR(23/4実)	1.8倍
予想配当利回り(24/4)	2.2%
ROE(23/4期)	11.1%
営業利益率(23/4期)	9.1%
ベータ(5年間)	1.9
発行済株式数	15.9百万株
上場市場	東証スタンダード

株価パフォーマンス



%	1月	3月	12月
株価	-8	5	38
相対株価	-6	7	12

注目点

プラットフォーム事業のKPIの進捗（契約者数、APRU、解約率など）、コマース事業におけるコスメティックス事業の利益寄与開始と事業全体の安定成長化の目処。2025年に想定される子会社のスピノフと上場を意識し、特にプラットフォーム事業のポテンシャルに期待が高まるような株価形成になるのか。

当レポート(Company note)は、Hameeの依頼を受けて作成しております。詳しくは、最終ページのディスクレマを参照ください。

目次

サマリー	1
主要財務データ	2
2024年4月期第2四半期決算	3
株価動向	9
今後の注目点	10
業績推移	11
参考情報	13

主要財務データ

決算年月		2017年4月	2018年4月	2019年4月	2020年4月	2021年4月	2022年4月	2023年4月
売上高	百万円	8,502	9,377	10,303	11,325	12,364	13,413	14,038
経常利益	百万円	1,048	1,267	1,179	1,757	2,149	2,330	1,400
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	696	873	821	1,069	1,556	1,744	945
発行済み株式数	百万株	15.8	16.1	16.1	16.1	16.3	16.3	16.3
純資産額	百万円	2,756	3,597	4,189	4,824	6,528	8,253	8,961
総資産額	百万円	4,240	5,042	5,761	8,097	8,339	10,518	12,320
1株当たり純資産額	円	170	216	254	297	405	513	557
1株当たり当期純利益	円	44	55	51	67	98	110	59
自己資本比率	%	64	69	70	58	77	78	72
自己資本利益率	%	30	28	22	25	28	24	11
営業キャッシュフロー	百万円	576	1,246	651	1,934	1,941	1,186	695
投資キャッシュフロー	百万円	-433	-674	-671	-1,020	-412	-886	-1,507
財務キャッシュフロー	百万円	69	-230	-7	933	-1,736	298	263
現金及び現金同等物の期末残高	百万円	1,324	1,695	1,660	3,453	3,355	4,026	3,536
従業員数	名	233	285	309	353	387	403	428

出所：同社資料よりOmega Investment作成、小数点以下四捨五入



2024年4月期第2四半期決算動向

Hamee株式会社（以下、同社）は、2023年12月14日引け後、2024年4月期第2四半期（8-10月期）の決算を発表した。

増収増益に回帰

第2四半期は復調した。第1四半期において、売上高は前年同期比増収であったものの営業利益と経常利益が減益になり、親会社株主に帰属する四半期純利益（以下、純利益）がマイナス（損失）になったことを踏まえると印象的である。

売上高43億円（前年同期比+22%増）、営業利益4.6億円（同+41%増）、純利益3.3億円（同+16%増）であり、コマース事業・プラットフォーム事業いずれも増収増益である。

IR資料によれば、第2四半期までの収益の進捗は、両セグメントともに売上高、営業利益が期初計画を上回って推移しているとのことである。

通期予想に対する進捗率は低め

通期業績予想は据え置かれている。

次に第2四半期までの進捗率を確認すると、売上高が45%、営業利益が30%、経常利益が34%、当期純利益が13%にとどまっている。このため、第2四半期の結果をもって通期予想の達成確度が高まったと判断するには時期尚早である。

24年4月期2Q 連結概況

- コマースセグメントの主要事業であるモバイルライフ事業の回復とコスメティクス事業の躍進によってグループ全体でトップラインは前年比15.0%成長(累計期間)
- 1Qに発生した税金費用の影響により親会社株主に帰属する四半期純利益は2Q累計期間で前年比マイナスとなるも、会計期間においては前年比16.1%の成長

(百万円)	会計期間				累計期間			
	2023/04 2Q実績	2024/04 2Q実績	増減額	前年比	2023/04 1Q~2Q実績	2024/04 1Q~2Q実績	増減額	前年比
売上高	3,527	4,314	787	22.3%	6,633	7,631	997	15.0%
売上総利益	2,099	2,683	583	27.8%	3,997	4,721	723	18.1%
営業利益	326	459	133	40.9%	574	633	59	10.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	288	334	46	16.1%	495	201	△ 293	△ 59.2%

出所：同社資料より Omega Investment 作成



2024年4月期第2四半期決算動向

通期予想に対する達成確度は第3四半期の着地を見てから判断したい

ただし、コマース事業、プラットフォーム事業ともに下期偏重の傾向があることから、通期予想の未達の可能性が高まっていると判断することも時期尚早であろう。

特にコマース事業におけるコスメティックスの売上高が大幅に伸びていること、プラットフォーム事業においては料金改定の効果が繁忙期である年度後半に期待できることなど、プラス材料も多い。

こうした点を勘案すると、現時点では、素直に第3四半期の仕上がりを待つべきだと思われる。

季節要因に関する会社説明

- 下記の各要因により、当社グループは第3四半期に売上高及び各段階利益が最も大きくなる傾向が強く、加えて第4四半期も一定の需要期であるため、業績は下期偏重になる特性があります。
- そのため利益計画についても下期偏重を前提として策定しています。

コマース セグメント

- 第3四半期(売上高及び利益の最盛期)
 - 年末商戦(グローバル事業においてはクリスマス商戦)による販売拡大
 - 新型iPhone向け商材を中心とするモバイルライフ事業の販売拡大
- 第4四半期(年度末、年度初めに伴う需要期)
 - 入学・就職などの新生活に伴う当社プロダクトの需要増

プラット フォーム セグメント

- 第2四半期(ARPU低迷期)
 - 夏季レジャー等「コト消費」へ消費行動が変化するため EC事業者の受注処理件数が低下、結果としてネクストエンジン事業の ARPU低下(売上減少)傾向
- 第3四半期(売上高及び利益の最盛期)
 - 年末商戦に伴い EC事業者の受注処理件数が増加、結果としてネクストエンジン事業の ARPU上昇(売上増加)傾向
 - 一方で EC事業者繁忙期につき契約獲得は鈍化傾向
 - ロカルコ事業はふるさと納税のピークである12月が業績の最盛期

出所：同社資料より Omega Investment 作成



2024年4月期第2四半期決算動向

コマース事業

増収増益

第2四半期のコマース事業は売上高35億円（前年同期比+28%増）、セグメント利益3.0億円（同+41%増）、利益率8.9%（同+0.8ポイント）となった。

増収の牽引役はコスメティックス事業、グローバル事業、ついでモバイルライフ事業であった。特に、コスメティックス事業は急速に認知が拡大し、売上高は前年同期比11倍の4.7億円になった。グローバル事業は本年1月に譲受けたオタマトーンの海外販売が着実に伸びている。モバイルライフ事業では、新商品の展開と新型iPhone商戦の活性化により卸販売が拡大し着実に増収を遂げている。

他方、ゲーミングアクセサリ事業は競争が厳しくなり若干の減収となった。ただし、商品ラインナップの拡充に素早く取り組んでおり、第3四半期以降の持ち直しが期待される。

利益面では、販売好調なグローバル事業が利益を大幅に伸ばした。モバイルライフ事業も増益であるが、費用配布の方針見直しで負担が軽くなった面もある。一方、ゲーミングアクセサリ事業は売上高の不振から若干の営業赤字になった。

コスメティックス事業はブランド認知と販路拡大の費用が高み、大幅な増収にもかかわらず前年同期比で赤字が若干拡大している。この赤字がどのように縮小し利益寄与に転じるのかが、注目される。

連結

24年4月期2Q コマースセグメント概況(売上高)

- 継続的な新商品の投入と新規卸先の獲得、新型iPhone商戦の出足が想定どおりだったことなどによりモバイルライフ事業は卸販売を中心に売上が回復
- TV番組による紹介を起点として認知が急拡大したコスメティックス事業は売上高が前年比11.0倍と好調を維持

コマースセグメント	会計期間				累計期間			
	2023/04 2Q実績	2024/04 2Q実績	増減額	前年比	2023/04 1Q~2Q実績	2024/04 1Q~2Q実績	増減額	前年比
売上高	2,709	3,453	743	27.5%	5,041	5,991	949	18.8%
モバイルライフ事業	2,025	2,161	135	6.7%	3,582	3,774	191	5.3%
ゲーミングアクセサリ事業	159	151	△7	△4.7%	347	332	△15	△4.6%
コスメティックス事業	47	468	420	884.7%	71	785	714	1,001.3%
新規事業投資	18	71	52	280.1%	37	100	62	167.8%
グローバル事業	458	601	142	31.1%	1,002	999	△2	△0.3%

出所：同社資料より Omega Investment 作成



2024年4月期第2四半期決算動向

連結

24年4月期2Q コマースセグメント概況(営業利益)

- 米国での販売が好調なグローバル事業がセグメント利益の伸びを牽引。会計期間で前年比639.8%、累計期間で142.6%の大幅な増益
- 間接部門(機能部署)への費用配賦方針の見直しによりモバイルライフ事業も増益となる

(百万円)	会計期間				累計期間			
	2023/04 2Q実績	2024/04 2Q実績	増減額	前年比	2023/04 1Q~2Q実績	2024/04 1Q~2Q実績	増減額	前年比
コマースセグメント								
営業利益	217	306	88	40.7%	377	393	15	4.2%
モバイルライフ事業	410	454	43	10.6%	724	779	55	7.6%
ゲーミングアクセサリ事業	7	△11	△18	—	9	△15	△24	—
コスメティクス事業	△138	△161	△23	—	△249	△230	19	—
新規事業投資	△57	△53	3	—	△111	△116	△4	—
機能部署	△26	△78	△52	—	△52	△162	△109	—
グローバル事業	21	157	135	639.8%	56	137	80	142.6%
利益率	8.0%	8.9%	0.8%	—	7.5%	6.6%	△0.9%	—

出所：同社資料より Omega Investment 作成



2024年4月期第2四半期決算動向

プラットフォーム事業

増収増益

第2四半期のプラットフォーム事業は売上高8.6億円（前年同期比+5%増）、セグメント利益4.1億円（同+23%増）、利益率47.7%（同+7.0ポイント）となった。

基幹であるネクストエンジン事業の売上高は5.9億円（同+2%増）となり、増収率が低水準にとどまった。

KPIを確認すると、総契約社数は期中116社純増し6,033社にまで着実に増加し、月次解約率も低水準で、GMVも2,623億円（同+7.9%増）と堅調である。

一方、ARPUは32,863円（同▲4.6%減）となり、これがネクストエンジンの売上高の伸び悩みの主因とみなせる。8-10月は消費がモノからコトに向かう季節性があるうえ、受注件数にも抑制傾向が見られる模様である。

ただし、今後は季節性が追い風になる時期に入るうえ、料金改定のポジティブな効果も期待できるため、第3四半期の仕上がりが見込まれる。

第2四半期の業績を下支えたのはふるさと納税支援のロカルコ事業である。当期は10月のふるさと納税制度の変更を受けて例年に比して取引が前倒しになったと見られる。したがって、第3四半期は例年よりも落ち着いた業績になることが想定される。

総じて言えば、ネクストエンジン事業がやや苦戦を強いられたと言えるが、顧客基盤のベースがしっかりしているうえ、ロカルコ事業がタイミング良くセグメント全体をした支えるという好循環が見られる。12月8日には、メルカリとの協業が発表されており、これにより顧客拡大、ARPU引き上げ効果なども期待しうる。事業環境の変化に機敏に対応し打つべき手を打っている印象である。

連結

24年4月期2Q プラットフォームセグメント概況

- EC市場の低迷に伴ってARPU低下が見られるも契約社数増加によりネクストエンジン事業は増収を維持
- コンサルティング事業は前年の吸収合併の際に7か月分の業績を取り込んだことから前年比減収の外観を呈するも利益率は改善
- 9月に制度変更に伴う駆け込み需要が発生しロカルコ事業が大幅増収

プラットフォームセグメント	会計期間				累計期間			
	2023/04 2Q実績	2024/04 2Q実績	増減額	前年比	2023/04 1Q~2Q実績	2024/04 1Q~2Q実績	増減額	前年比
売上高	819	858	38	4.7%	1,593	1,639	46	2.9%
ネクストエンジン事業	580	594	14	2.4%	1,178	1,223	44	3.8%
コンサルティング事業	148	103	△44	△30.1%	268	204	△64	△24.0%
ロカルコ事業	90	159	69	76.5%	146	212	66	45.2%
営業利益	333	409	76	22.8%	656	758	102	15.6%
営業利益率	40.7%	47.7%	7.0%	—	41.2%	46.3%	5.1%	—

出所：同社資料より Omega Investment 作成



2024年4月期第2四半期決算動向

ハイライト (会計期間)

プラットフォーム

P F	売上高(2Q) 858 百万円 (前年比 4.7%増)	営業利益率(2Q) 47.7% (前年比7.0%増)
	総契約社数(2Q) 6,033 社 (前年比 435社増)	GMV(2Q)※1 2,623 億円 (前年比 7.9%増)
ネクスト エンジ ン事 業	ARPU(2Q)※2 32,863 円 (前年比 4.6%減)	月次解約率(2Q)※3 0.82% (前年比 0.2%減)

※1GMV…Gross Merchandise Valueの略でネクストエンジンを通じて行われるEC取引の総額として記載しております。
当第2四半期よりキャンセル処理分をGMVから除外した値となっております。

※2ARPU…Average Revenue Per Userの略でネクストエンジン利用社1社当たりの月次売上の平均として記載しております。

※3月次解約率…四半期期間における解約数の平均から四半期末時点の総契約社数を除算した数値を記載しております。

出所：同社資料より Omega Investment 作成

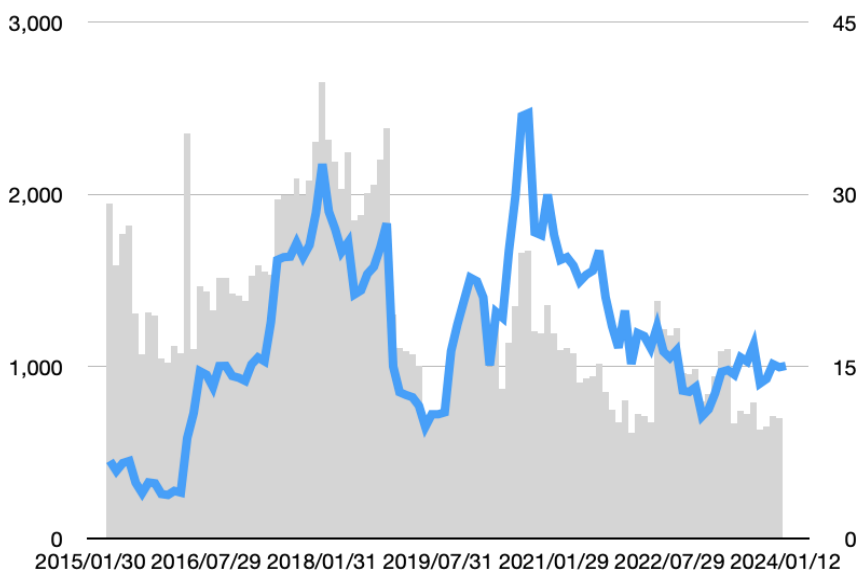
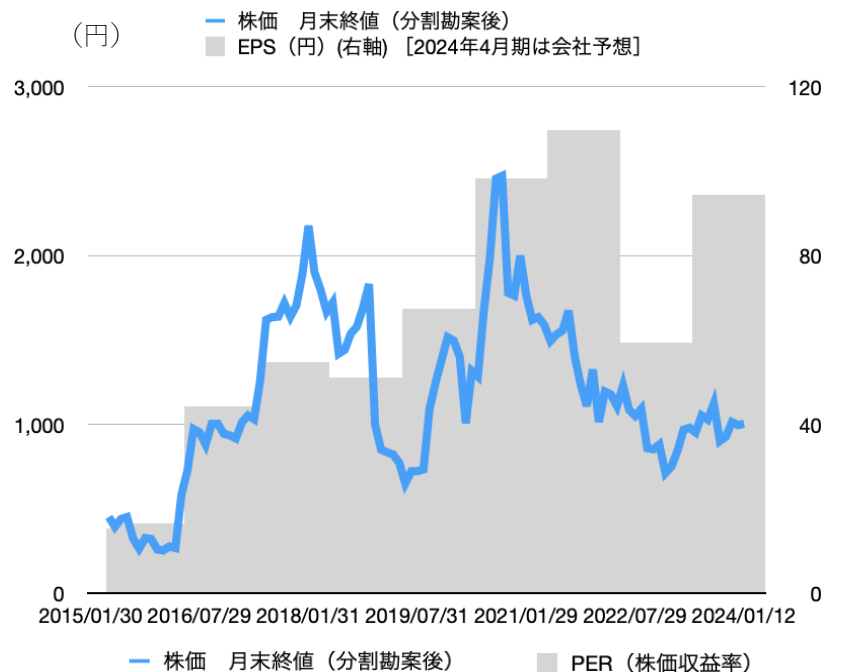
組織再編等

2023年7月14日にNE株式会社の株式分配型スピンオフ、およびNE株式会社のスピンオフIPOが発表された。これに関する新しい情報は現状特段の開示はない。



株価動向

Hameeの株価動向



同社株価の月末終値と年度別のEPS（2024年4月期は会社予想）の推移、および株価とPER（株価収益率）はこのグラフの通りである。

第2四半期決算発表後の株価の反応は一旦下落したあとに持ち直し、発表直前と直近の株価はほぼ同水準である。この背景は、増収増益という好内容でありながら、通期計画に対する業績進捗が低いことが主因とみられる。この結果、PERは通期会社予想EPSに対して10倍程度の低位にとどまっている。これはEコマースの製造販売事業者としても見ても、ECプラットフォームerとして見ても控えめと言えるだろう。

見方を変えれば、成長性とその内容次第ではポジティブに評価が大きく変わるポテンシャルを秘めているとも言える。そのため、第3四半期の業績に対して注目度が極めて高いと思われる。



今後の注目点

以上、第2四半期の決算は総じて堅調であり、第3四半期に対する期待につながる内容と考えられる。ただし、同決算に対する株価の反応は小さく、通期会社予想に対する確度が未だ低いと株式市場が考えていると思われる。

仮に第3四半期が好業績になり、内容面でも中期的な成長を示唆するポジティブなものであれば、バリュエーションが切り上がる可能性が高く、その投資魅力は大きい。

第3四半期決算に向けて特に注目したいポイントを整理すると次の諸点となる。

第一に、繁忙期になる第3四半期の結果で、通期予想の達成確度が高まるか。

第二に、コマース事業におけるコスメティックス事業がいつ黒字化し、その後売上高・利益を牽引する役を担うのか。グローバル事業はもう一つの利益牽引役を担うことになるのか。

第三に、ネクストエンジン事業がプラットフォームとして浸透・定着し、特に料金改定を経て平均顧客単価（ARPU）が増加基調に転じるのか。

最後に、PER等のバリュエーション指標が同社の成長性を再評価して拡大するのはいつからか。

業績推移

通期業績推移

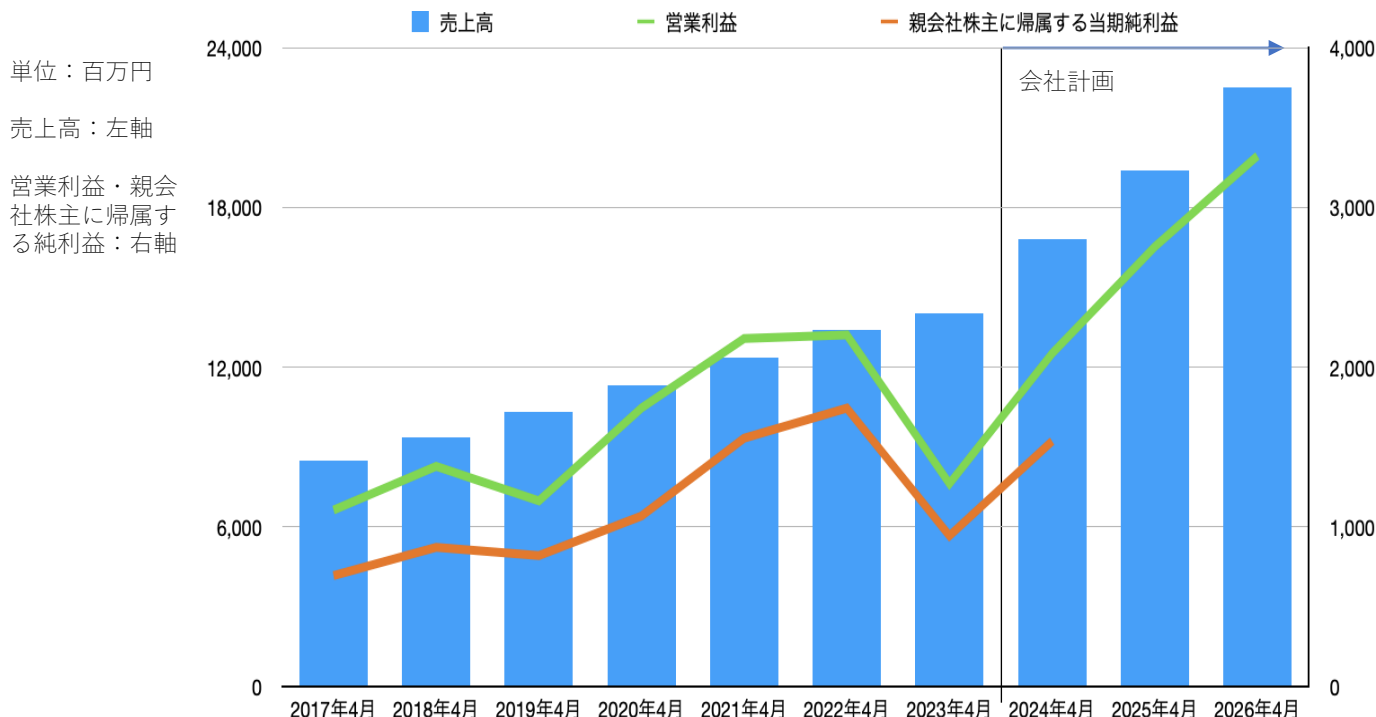
(百万円)

決算期	2017年4月	2018年4月	2019年4月	2020年4月	2021年4月	2022年4月	2023年4月	2024年4月	2025年4月	2026年4月
連結・日本基準								会社予想	中期経営計画	中期経営計画
【損益計算書】										
売上高	8,502	9,377	10,303	11,325	12,364	13,413	14,038	16,813	19,408	22,515
営業利益	1,106	1,380	1,164	1,745	2,180	2,202	1,271	2,086	2,754	3,323
経常利益	1,048	1,267	1,179	1,757	2,149	2,330	1,400	2,069		
税金等調整前四半期純利益	1,010	1,259	1,179	1,582	2,144	2,463	1,396			
親会社株主に帰属する当期純利益	696	873	821	1,069	1,556	1,744	945	1,537		
【貸借対照表】										
資産合計	4,240	5,042	5,761	8,097	8,339	10,518	12,320			
負債合計	1,484	1,445	1,572	3,272	1,811	2,265	3,360			
純資産合計	2,756	3,597	4,189	4,824	6,528	8,253	8,961			
借入金合計	468	298	500	1,740	104	544	1,300			
【キャッシュ・フロー計算書】										
営業活動によるキャッシュフロー	576	1,246	651	1,934	1,941	1,186	695			
投資によるキャッシュフロー	-433	-674	-671	-1,020	-412	-886	-1,507			
財務によるキャッシュフロー	69	-230	-7	933	-1,736	298	263			
現金及び現金同等物の期末残高	1,324	1,695	1,660	3,453	3,355	4,026	3,536			
【経営効率】										
売上高経常利益率	12%	14%	11%	16%	17%	17%	10%	12%		
ROA		19%	15%	15%	19%	18%	8%			
ROE	30%	28%	22%	25%	28%	24%	11%			
【一株指標】 単位：円										
EPS	44	55	51	67	98	110	59	94		
BPS	170	216	254	297	405	513	557			
DPS	4.5	5.5	6.5	7.0	10.0	22.5	22.5	22.5		
【従業員数】										
連結従業員数	233	285	309	353	387	403	428			

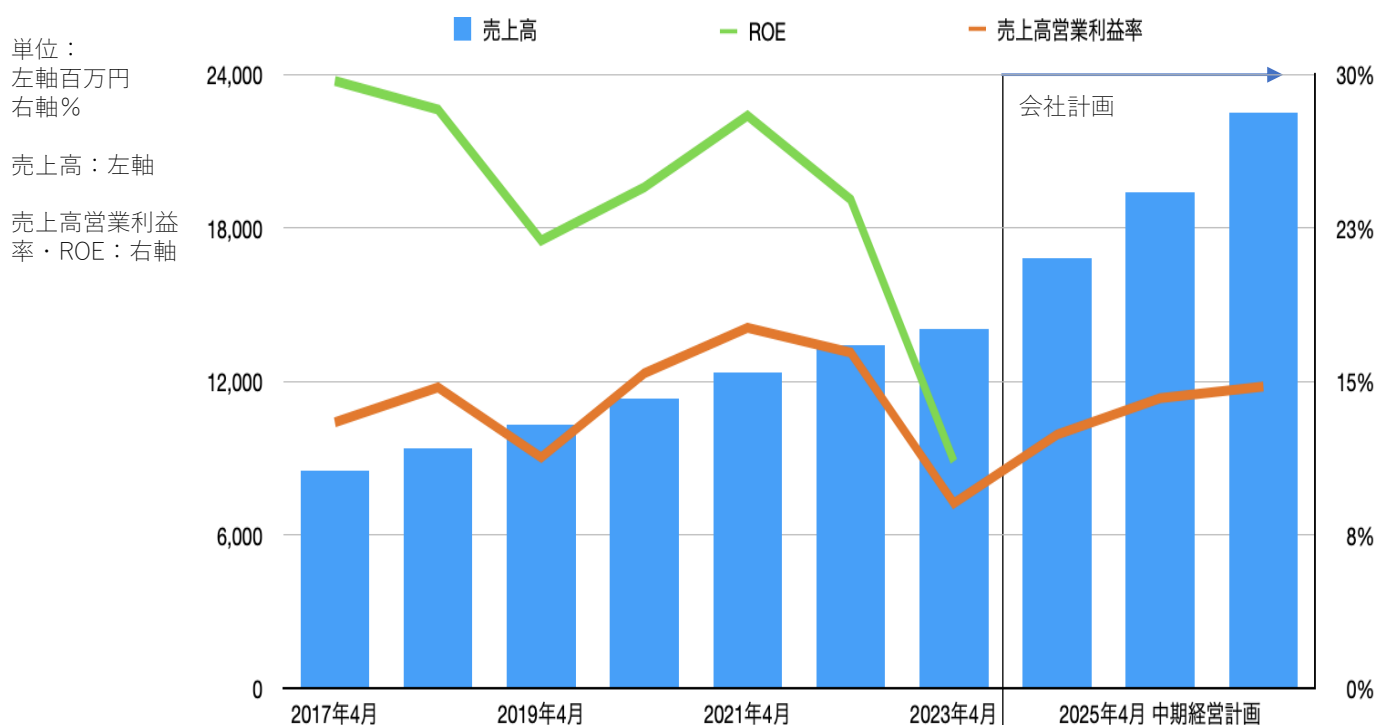
出所：同社IR資料よりOmega Investment作成
四捨五入

業績推移

通期損益計算書主要項目推移



通期売上高・売上高経常利益率・ROE推移



出所：同社IR資料よりOmega Investment作成



Hamee 株式会社

会社概要

会社	Hamee株式会社
創業	1997年4月
設立	1998年 5月 ※マクロウィル有限会社として
資本金	598,262千円(2023年4月30日現在)
取締役	代表取締役会長：樋口 敦士 代表取締役社長：水島 育大 取締役：鈴木 淳也
社外取締役／監査等委員	熊王 斉子、染原 友博、吉野 次郎
従業員数	連結428名(2023年4月30日現在)
ウェブサイト	https://hamee.co.jp
所在地	■本社 〒250-0011 神奈川県小田原市栄町2-12-10 Square O2 ■東京営業所 〒136-0071 東京都江東区亀戸1-8-7 飯野ビル5階 ■大阪営業所 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-2-28 オーク堂島ビル6階A室
子会社	■NE株式会社 〒250-0011 神奈川県小田原市栄町1-6-4 勝俣組ビル6階 ■Hamee Global Inc. 3F, Gasan A1Tower, 205-27, Gasan digital 1-ro, Geumcheon-gu, Seoul, Republic of Korea 08503 ■Hamee US, Corp. 635 Hawaii Ave., Torrance CA 90503 ■Hamee Shanghai Tech & Trading Co., Ltd. J0293 Room 302 Building 6, Lane 599 Yungu Road, Malu Town, Jiading District, Shanghai, China



主要株主の状況

2023年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所 有株式数の割合 (%)
AOI株式会社	神奈川県小田原市栄町二丁目12-15	5,312,000	33.37
樋口 敦士	神奈川県小田原市	2,533,400	15.92
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11-3	823,900	5.18
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱 UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U. S. A. (東京都千代田区丸の内二丁目7-1)	542,264	3.41
北村 和順	神奈川県小田原市	473,700	2.98
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8-12	422,000	2.65
INTERACTIVE BRO KERS LLC (常任代理人 インタラクティ ブ・ブローカーズ証券株式会社)	ONE PICKWICK PLAZA GR EENWICH, CONNECTICUT 06830 USA (東京都千代田区霞が関三丁目2-5)	198,400	1.25
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券株式会社)	PLUMTREE COURT, 25 SHOE LANE, LONDON EC4 A 4AU, U. K. (東京都港区六本木六丁目10-1)	173,886	1.09
NORTHERN TRUS T CO. (AVFC) RE NON TREATY C LIENTS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東 京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11-1)	171,192	1.08
STATE STREET B ANK AND TRUST COMPANY 505103 (常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A. (東京都港区港南二丁目15-1)	144,500	0.91
計	—	10,795,242	67.83

株主構成

2023年4月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他 の法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	7	20	59	46	26	6,970	7,128	—
所有株式数 (単元)	—	12,869	1,315	54,655	18,225	291	75,351	162,706	9,400
所有株式数 の割合(%)	—	7.91	0.81	33.59	11.20	0.18	46.32	100.00	—

(注) 自己株式363,700株は、「個人その他」に3,637単元含まれております。



General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの調査によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。